



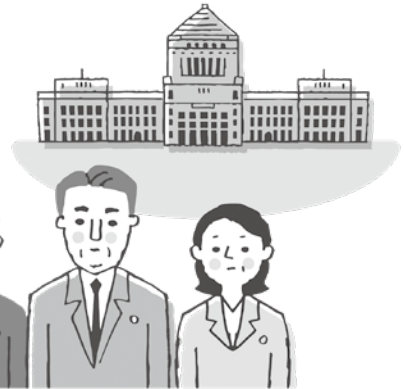
## 政治がわかる！せとけん政治塾 最終回

# 政治論争になる右派と左派の違いとは何か？ ～北欧諸国のような健全な左派言説の復権～

### 新しい一歩

キリストを信じて、ユダヤ人

そしてパウロやバルナバと彼らとの間に激しい対立と論争が生じたので、パウロとバルナバと、その仲間うちの幾人かが、この問題について使徒たちや長老たちと話し合うために、エルサレムに上ることになった。(使徒一五・2)



のように割礼を受けていなければ救われないのか？ この論争が、キリスト教をユダヤ教の一派という立場から、独立した世界宗教へと脱皮させる分水嶺(ぶんすいれい) (物事の方向性が決まる分かれ目) となりました。これを「エルサレム会議」と言います。その後、大伝道者パウロは「人が義と認められるのは、律法の行いによるのではなく、信仰によるというのが、私たちの考えです。」(ローマ三・



### 瀬戸健一郎

英国国立エセックス大学政治理論修士過程修了／獨協大学法学部卒／前衆議院議員 山川ゆりこ (妻) 事務所長／日本マルタ友好協会会長／(一社) 日本 CBMC 副理事長／元・草加市議会議員 (6期) ～議員団長、議長、監査委員、全国市議会議長会評議員等歴任／1981年米国聖公会で受洗／草加神召キリスト教会所属／信仰と学問的知識及び30年余の政治経験を活かし、日本を変え、世界に平和をつくる活動を夫婦で展開している。



第一回使徒会議 (エルサレム会議)

28)と述べて、信仰義認の立場を明確に宣言しています。しかし、彼はユダヤ人クリスチャンにも十分に配慮して、ギリシヤ人の父を持つ弟子のテモテに割礼を受けさせる(使徒一六・3参照)など、パウロは福音伝道をスムーズに実行するために、真理には厳格に、それ以外のことは寛容に対処していきました。

本稿の目的はエルサレム会議について論ずることではありません。しかし、私たちがこの世的な多種多様な議論や論争に惑わされず、それらの中核にある本質的な問題を見極める術を手に入れることができれば、政治はこの世を少しでも神の国に近づける使命を果たせるかもしれません。そこで本稿では、最も古くから議論や論争の尺度として用いられてきた「右派」(右翼)と「左派」(左翼)という政治論争における区別について考えてみたいと思います。

## イエス一派は極左だった？

モーゼの慣習によって行われてきた割礼を異邦人にも義務付けるべきか否か。このような論争は現代社会でも日常的に発生しています。神が預言者を通じて人々に与えた律法を人間が変えることは許されないもので、パウロも律法そのものを変えた訳ではありません。律法主義に偏った当時のユダヤ人たちの生活規範を信仰義認にシフトさせる方法で、福音を説いたのです。当時のユダヤ人社会における常識や律法解釈を、覆すイエスとその使徒たちが、当時のユダヤ人にとっていかに脅威であったかは想像に難くありません。それは当時の彼らの秩序を壊すことだったからです。

ここで、割礼という慣習を守ろうとするパリサイ人を「保守派」、これを廃棄して、新しい秩序を立て上げようとしたイエスとその使徒たち

を「革新派」と呼ぶことができず。つまり現代社会に照らしみると、既成概念や現状維持を標榜し、過去の慣習への回顧主義的な立場を取る保守的な、もしくは反動的な立場や考え方を「右派」(右翼)と呼び、現状打破とか、新しい考え方を標榜して、現行の諸法規諸制度を改革していくという革新的な立場や考え方を「左派」(左翼)と呼ぶことが出来るので、イエス一派は当時のユダヤ人社会では、極左だったと言えるかも知れません。ただし、現代社会においては民主的に議論によって法律そのものを改正することが可能で、政治家がその使命を担っています。

さて、右派(右翼)とか左派(左翼)というこの違いや区別についてはざっくりとご理解頂けたと思います。その語源は、フランス革命後の国民議会の座席配置にあると言われています。議長席から見て右側にジロンド派などと呼ばれた立憲君主制

フランス国民会議

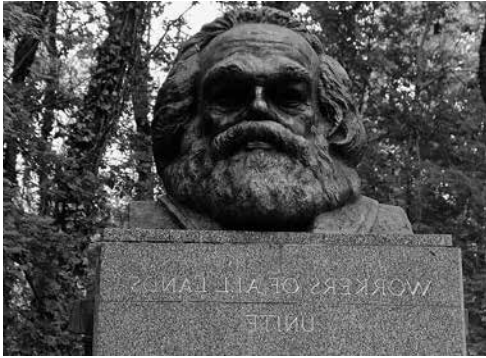


を支持する穏健派が陣取り、左側にジャコバン派などと呼ばれた共和制を支持する急進派が陣取ったことがそもその由来です。日本の国会においても、議長席から見て右側に自民党(保守)が陣取り、共産党を最左翼に野党勢力(中道、革新)が左側に、今でも陣取っています。

## ポスト・マルクス主義

ここで話題をガラッと変えて、皆様に唐突なお願ひがあります。「どうか決して思い浮かべないで下さい。一頭の象のことを！」さて、こう言われて、一頭の象のことを思い浮かべなかつた方はどれほど居られたでしょうか？ これはアメリカの認知言語学者ジョージ・レイコフ教授が毎年、彼の最初の授業で学生たちに投げかける言葉です。「思い浮かべないで」と言われても、「一頭の象」と言われた瞬間にすべての人の脳裏に「一頭の象」が思い浮かんでしまう。ある人はインド象を思い浮かべるかもしれませんが、ある人はタンポを思い浮かべるかもしれませんが。しかし「一頭の象」は確実に脳裏に思い浮かぶ。これが認知言語学の研究分野だとレイコフ教授は学生たちに最初に体感させるのです。

かなり展開が強引になりました



ロンドンにあるマルクスの墓碑

が、実はこの認知言語学という分野と私が専攻した批判的言説分析には大きな共通点があります。この批判的言説分析という学問はエルネスト・ラクラウ教授とその生涯の伴ひであつたシャントル・ムフ教授によつて切り拓かれた政治理論の分野です。彼らはあらゆる事物を文脈化したり、既に固定化された文脈を解除したりして、それらの事物の本質を社会の現状に照らして浮き彫りにして、時には「空虚なシニフィア

ン」という禅問答で言う色即是空しきそくぜくうのような空間を想定して、再文脈化する。言説がこの世のあらゆる事物を理論化することが出来ることを証明しました。その功績の一部はその後、彼ら自身がそう呼んだわけではありませんが、「ポスト・マルクス主義」と呼ばれるようになりました。マルクス主義の根底にあつた「階級闘争」は、身分制度が消失したことで理論的には終焉しましたが、社会に残存した差別、抑圧、貧困、格差といった問題を解決するために、マルクス主義を復活させる働きが求められ、彼らはそれを成し遂げました。

## 抹殺される言説を救え

認知言語学と批判的言説分析などという難しい話題をあえてここに持ち込んだのは理由があります。皆様は「マルクス主義」、「共産主義」、「社会主義」、「左翼」、「左派」という言葉を聞くとどのようなことを認

知Ⅱ思い浮かべるでしょうか？ 肯定的なイメージとして脳裏に浮かぶでしょうか？ それとも否定的なイメージでしょうか？ 既に過去のイデオロギーやお考えになるのでしょうか。しかし本来、これらのイデオロギーや言説は、保守派が守ろうとする既存の社会秩序や価値観を社会の実情に合わせて変革しようとする政治勢力が用いるべき思想であり、言説です。それがそのように積極的に用いられなくなつたとしたら、それはなぜなのでしょう？

実は認知言語学が解明する言語とその意味や概念がどのように結びついているかが重要なカギとなります。「一頭の象」という言語が皆様に思い起こさせるイメージは必ずしも一つのイメージではありませんが、「象」という枠を出ることはありません。しかし、「共産主義」、「社会主義」という概念は、長い月日をかけて意図的な言説によって文脈化されることによつて、「否定的な過去の遺物

である」とか、「国の成り立ちや国体そのものでさえ、壊す危険思想だ」といった意味やイメージを付加することが可能です。これによって抹殺されつつある「左派」（左翼）的な言説をレイコフ教授は認知言語学の分野で、ラクラウ教授は言説分析の手法によって救おうとしたのです。

実は一九七〇年に遡って、実際に「左派」言説や「左翼」思想を抹殺しようという保守派の人々が米国に現れ、巨額の資金を投じて、複数のシンクタンク（財団）を設立しました。当時の世界は冷戦構造の只中にありましたから、旧・ソ連を中心とする東欧諸国や中国を核軍拡競争で封じ込めることに限界が見えてきたので、彼らの思想を言説戦争で打ち砕こうとしたのです。そしてそれが米国の世論となり、米国内でも「共産主義」や「社会主義」、さらには「マルクス主義」までもがタブー視されるようになりました。これが「レッド・ページ」（赤狩り）の成果

となったと言っているかもしれません。従って、一九九〇年の冷戦終結によって、彼らが巨額の費用を投じた言説戦争プロジェクトは二〇年で完結したわけでは

### イメージ伝達に 一役かった文脈化

しかし意外なことに、このプロジェクトの発端は、ウォーターゲート事件で追い詰められたリチャード・ニクソン大統領の発言にあったとレイコフ教授は指摘します。大統領執務室からTV放映された辞任会見で、ニクソン大統領は「私は脱落者ではありません」と弁明します。すると国民は皆、ニクソンは「脱落者」だとレッテルを貼り、皮肉にもニクソン大統領の名誉回復は一層困難になってしまいました。ある言葉がどのような文脈で用いられたとしても、人々の認知する意味やイメージは、必ずしも発言者が意図したとおりには伝わらない。このことに気



ニクソン辞任演説

づいた共和党（保守派）支持者たちが、民主党（リベラル派）を封じ込める言説戦争プロジェクトを立ち上げたというのです。言語や言説を分析して、どのように文脈化すれば、意図したとおりのイメージを国民に認知させることができるか。このことをまだ、民主党（リベラル派）は重視しませんでした。

余談ですが、皆様はFOX NEWSというテレビ局をご存知でしょうか？この全米ネットワークのひとつも共和党の言説戦争プロジェクトの副産物です。FOX NEWS

Sのアナウンサーが民主党の思想を表す「リベラル」という言葉を発音する時、必ず「リーベラル」と、わざと第一音節を強調して発音します。こうすることで、リベラルを侮蔑する意図を国民に発信し続けてきました。その結果、民主党（リベラル派）の人々がリベラルという言葉を目も鼻も触れず得ない風潮が全米に広まりました。もはやここまで来ると、共産主義や社会主義といった言葉は、リベラルよりもさらに左に位置するので、メディアからも政治家の言葉からさえも、聞かれなくなっ

てしまいました。冷戦の終結と共に、左派（左翼）思想は完膚なきまでに言説戦争で叩き潰され、政治論争の正に一翼を担った左派（左翼）は日米においては、タブー視されるようになってしまったのです。そこで米国では、リベラルという言葉に替わる新しい言説として、プログレッシブという言葉が用いられるようになり、プログレッシブ・コー

カスという民主党政議員を中心とする新しいグループが誕生しました。これはラクラウ教授がマルクス主義の真意やエッセンスを「ポスト・マルクス主義」として現代に蘇らせたように、長い水面下の言説戦争によって封じ込められた真のリベラルな思想を改めて全米国民に広めていこうという試みであり、日本の国会でもプログレッシブ議員連盟が誕生し、アジアでもヨーロッパでも広まりつつあります。本来であれば、左派が左派と言える。リベラルがリベラルと堂々と言える。そのような左派言説や左翼思想に対する国民のイメージを肯定的にシフトすることが大事だと思えますし、そのためには「左派だ」と評価されることに對する覚悟が「左派」（左翼）の政治家には必要なんだろうと思えます。

## 北欧諸国で開花した 真のマルクス主義

また、私はマルクス主義の目指し

たものが真に開花したのは、ロシアでも中国でもなく、福祉国家と評される北欧の国々だと考えています。そこでは格差は最小限度で、経済的にも必要十分に繁栄しており、何よりも、ロシアや中国が一党独裁体制であるのに対して、彼らは右派から左派まで幅広い政党を有しています。そして多党制ですから、毎回の選挙でその時々国民の選択に依じて連立政権が成立します。さらにそのメカニズムの根底には、ヨーロッパ全体に適用されている「L-Rスコア」という政党評価システムが存在しています。これは各政党が志向する政策などを左派（L）から右派（R）まで、10点法で評価します。恐らく2以下が極左、8以上が極右と評価されるのですが、それぞれの政党がそれぞれの評価スコアを持っていて、選挙結果とクロス集計して、その選挙ごとの国民の意思の中央値を算出し、その中央値を含む議席を獲得した政党を中心に、連立政権が

作られます。単なる数合わせではなく、国民の中央値が4.5ならば、それを中心とするやや左派系の連立政権がマંデート（正当性）を持つことになるわけです。つまり、左派（左翼）といった思想も右派（右翼）という思想も同等に評価され、国民は選挙において、明確な選択肢を常に幅広く手にしていることになるわけです。

しかし、ロシアや中国が一党独裁であるように、日本や米国の政治状況においても、冷戦を経て左派を排除しようとしたために、結果的に国民の選択肢を「保守」寄りに封じ込めて、左右の幅が狭い政治状況を作ってしまったと私は分析しています。それでも国民は常に「保守」か「革新」か、「右派」か「左派」かといった明確な選択肢を常に手にしているべきであり、そういうものだと思います。バイデン政権が誕生し上下両院を民主党が制するトリプル・ブルーを達成した米国でさえ、左派

言説は未だ脆弱です。「左派ポピュリズムのススメ」とは、私の修士論文のテーマですが、真のリベラル世界の中のすべての人々の人権を政策判断の中核に据えた考え方を担う政治家たちの奮起と「左派だ」と批判されることを恐れない勇氣ある言動・言説が今こそ必要なのではないかと考えます。そのことよつてはじめて、政治論争に幅広いバランス感覚が蘇り、人々の選択肢を広げることが可能になるでしょう。イエスやその使徒たちにはそのような議論に挑む命がけの勇氣があつたのです。反面教師の教訓として、本稿を次の聖句で締めくくります。と思います。

しかし、愚かな議論、系図、口論、律法についての論争などを避けなさい。それらは無益で、むだなものです。（テトス三・9）

日本のリバイバルのためのクリスチャンジャーナル

# HAZAH

## 連載 政治が分かる！せとけん政治塾（全14回）

- 第 1 回 民主主義ってなんなの？
  - 第 2 回 なぜクリスチャンとして政治に関わるのか
  - 第 3 回 個人の可能性が 100%開花する政治をめざして
  - 第 4 回 今、求められる愛と寛容と赦しの政治
  - 第 5 回 超高齢化を食い止める身近な政治課題～不妊治療と少子化対策
  - 第 6 回 新型コロナウイルス感染症対策～なぜ国産ワクチンが出来ないのか？
  - 第 7 回 国産ワクチン開発を急げ！～もっと知りたいワクチンのこと
  - 第 8 回 平和外交と人権問題の本質～日本は対米思想から自立できるのか？
  - 第 9 回 東京オリンピック・パラリンピックとワクチンパスポート
  - 題 10 回 戦後 76 年目の終戦の日に想う Part I～真珠湾攻撃の真実
  - 第 11 回 戦後 76 年目の終戦の日に想う Part II～マッカーサーの戦後占領政策とWGIP
  - 第 12 回 日本を変える、世界が変わる～総選挙を目前に日本のあるべき姿を考える
  - 第 13 回 CBMC アジア太平洋大会：御霊の一致～平和をつくる使命をなし遂げよう
  - 第 14 回 政治論争になる右派と左派の違いとは何か？～北欧諸国のような健全な左派言説の復権
- ※以上、2020年11月号～2021年12月号まで、毎月掲載全14回。 (完)

ご意見・ご感想は [setokenichiro@gmail.com](mailto:setokenichiro@gmail.com) までお寄せ下さい！

バックナンバーは <https://setokenichiro.com/voices/> から閲覧できます！

※執筆記事・論考 Discussion 記事一覧から (HAZAH) をご参照下さい。



←バックナンバーのある「発言・メディア集 Voices」へのQRコード

※月刊ハーザーご購入のお申し込みサイトは次のQRコードから



Malkoushu Online



株式会社マルコーシュ・パブリケーション 〒297-0017 千葉県茂原市東郷 1373